

# 聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

## 巻頭言

### 「新体制による出発」

聖書宣教会理事長 清水昭三

主の御名を賛美申し上げます。

聖書宣教会をお祈りと献金をもって支えてくださる諸教会の皆様、心から感謝申し上げます。主のあわれみの中で、聖書宣教会は51年目を迎え、理事会で数年来検討されて来ました新体制で歩み出すことになり、今までの責任役員会を理事会とし、校長と理事長を立てることになりました。以前の会長と教師会議長体制では、ややもすると会長に責任が集中し過ぎる可能性があったと判断したためです。舟喜順一先生と羽鳥明先生たちの創設時に戻ったような面があります。しかし創設時と大きく異なるのは、どうしても新しい者が校長と理事長になる必要があることです。それで、校長に鞭木由行師、理事長に私がその任を負わされることとなりました。私は、全くふさわしくない者ですが、負わされた任を全うできるようにお祈りくださいれば幸いです。

言うまでもなく、聖書宣教会の教育の中心は教師と研修生です。教会から派遣された研修生を教師が教育指導します。理事会は、その教師と研修生を支える責任を持っています。理事会のおもな課題は次のようなものです。理事会がその任務をよく果せるように、是非お祈りください。

#### 1. 教育環境を整える。

- a. 学びの環境づくり。昨年、数名の若い講師を迎えて充実した教師陣となっております。専任教師も以前は多い時は6名でしたが2009年4月からは2名となり、他は牧会等しながらの教師たちです。理事会は、これら教師たち自身の学びが充実するにはどうあればいいかを考え、待遇や健康管理などの配慮をすることになります。
- b. 研修生の募集と研修状況の把握。2009年は4名の新生を迎えました。感謝です。彼らが、主と教会に仕える良い働き人と

して整えられますようお祈りください。また、貴教会に興された献身者を聖書宣教会にお送りくださいますようお願いいたします。



- c. 建物、設備など住環境の整備として、当面、单身寮の改修、図書館の拡充が必要となって来ています。理事会で予算と図面の検討がなされ、近く改修工事が始まります。

#### 2. 経済的必要が満たされるように奉仕する。

聖書宣教会は献金によって運営されています。理事会は、予算の作成、教会への献金依頼、献金管理、決算報告などの責任を負います。また、教師の経済的必要を満たすように配慮する必要があります。

#### 3. 教会との窓口となる。

教会に仕える聖書宣教会として、理事会は、祈祷課題を教会に知らせ、教会からの要望を聞く役割を負うこととなります。また、同窓会からの協力も必要としています。聖書宣教会についての提案、要望がありましたら、理事会宛てに連絡くだされば幸いです。

#### 4. 宗教法人の窓口となる。

理事会は国に対する責任を持つこととなります。そのための規則を数年かけて改正いたしました。今後は、一層落ち着いた、充実した教育がなされると期待しております。

聖書宣教会が、教会からの献身者を迎え、主にあつてよく彼らを教育して教会に送り返す任務を果せるように、教師のため、研修生のため、また、理事会のためにお祈りくだされば幸いです。

聖書宣教会校長 鞭木由行

### 新学期開始

新年度が始まり早二ヶ月、新入生たちも聖書神学舎の独特のリズムによりやく馴染んで来た頃ですが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。いつも聖書宣教会を覚えてお祈りいただけますことを心から感謝申し上げます。

私自身は、この4月より校長として奉仕することになりましたが、身に余る肩書きには一向に馴染むことができず、新しいことの連続に四苦八苦しています。校長は校長でも、校長兼教務主任兼教師兼舎監等々、最初の一ヶ月は時間が止まったようになり、ため息とともに、ゆっくりと過ぎて行っただけでした。今年から赤坂泉先生と津村俊夫先生と私の体制がスタートしました。赤坂先生が研修生活と事務局を担当し、津村俊夫先生が図書館長に返り咲き、それぞれ精力的に働きを継続されています。しばらく手薄になっていた図書館の働きが再開されたのは、今後の聖書宣教会の使命のためには大きな意味を持つことでしょう。

### 新学期のイベント

さて、春の新学期シーズンには、こんなに色々なイベントが続くのかと、今更ながら驚きあきれています。

4月9日は「入会式」でした。4名という新入生の減少に伴い参加者は少なく、やや寂しいスタートとなりました。三日間のオリエンテーションの後、前期の授業が11日より開始され、単身寮、家族寮の歓迎会がそれぞれ持たれ、5月1日には「ピクニック」で昭和記念公園まで行って汗を流し、その後9日に「オープンデイ」があり、50名近くの兄弟姉妹を諸教会から迎え

ることができました。21日には藤野福音キリスト教会から小林基人先生を講師に迎えて「祈りの日」を持ちました。こうして最後の極めつけは6月1日の「神学校親善ソフトボール大会」があり、これが終わると一連の春の行事が終了することになります。

### 祈りの交わり

慣れない毎週のルーティーンとしては、楽しい祈祷会があります。火曜日に家族寮の祈祷会、水曜日夜に宣教会祈祷会、金曜日に単身寮の祈祷会にそれぞれ出席するようにしており、それ以外にも家族寮のロング祈祷会が毎月我が家でもたれるようになり、結構多忙な一週間のスケジュールですが、でも研修生ひとりひとりの交わりが深められて行く貴重な機会を与えられ、喜んでいます。4名の新入生を迎えましたが、それぞれが独自の背景から主によって聖書神学舎に導かれて来たそれぞれの献身のあかしを伺いながら、改めて主が私たちひとりひとりに御計画を持ち、導くお方であることを痛感させられています。

### これからのために

この学年は新カリキュラムによる最初の研修生でもあります。この新カリキュラムがより一層用いられるものとなることを願っています。祈りの課題としては、教会音楽科をどのように運営して行くかという問題があります。今年度も音楽科への新入生はゼロでした。礼拝における賛美のあり方が多様化する現状において、この分野における聖書宣教会の使命が何かを再度確認しながら、今後のあり方を検討して行きたいと願っています。

# 建物補修改修について

鞭木由行

## 第一期工事報告

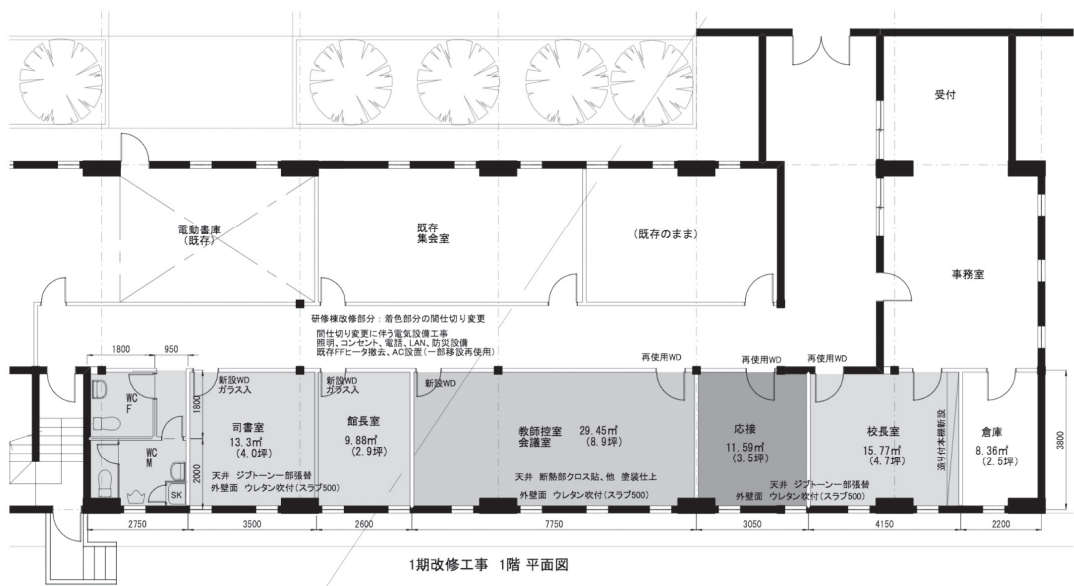
すでにお知らせしましたように、聖書宣教会の建物は、20年の年月によって補修が必要となっています。第1期工事は、この春休みに無事終了しました。それは、主に研修棟1階の断熱とリフォーム工事等でした。主な変更点としては(下図参照)、従来狭すぎて困っていた教師控え室を廊下を隔てた反対側に移転して拡張しました。また男女両方の单身寮舎監を受け持つことになった赤坂先生ご夫妻には研修棟3階から生活棟1階へ引っ越していただき、それを機に断熱とリフォームをしました。従来の教師会議長室は、事務の倉庫になり、その隣に校長室、応接室をそれぞれ独立して設け、その隣には新しい教師控え室を設置しました。さらに図書館長室を設け、隣に司書室そしてトイレと続いています。次回訪問のおりは、この変化を是非お見届けください。ここまでが第1期工事でした。

## 第二期工事予定

第二期工事は、この夏期調整期間に行う予定です。主な計画としては、全体の断熱工事とともに、図書室の整備拡張工事、单身寮の補修工事、また各教室のサイズを現実の必要に合わせて変えて行く予定です。特に今後合同授業が無理なくできる大きめの教室を必要としています。屋根の断熱・補修工事も必要で第一期工事に比べさらに大規模な改修になりますが、卒論・卒研に取り組む卒業予定者に迷惑をかけずにどのように行うことができるのか、大いに頭を悩ませています。また夏には恒例の夏期研修講座や教会音楽講習会が予定されており、それらに支障のないように工事を進めて行くことを考えると、一夏で済ませることは困難かもしれませんが、今後の検討課題です。これらの工事が順調に運ぶようにお祈りいただければ感謝です。

## 公 告

聖書宣教会の建物補修改修第二期工事を、7月以降に実施する。  
建物・設備準備金と図書館建設準備金から5000万円を取崩す。  
2009年6月1日  
理事長 清水昭三





左より、畑田、矢吹、石井、浅野

氏 名	出 身 教 会	奉仕教会
(聖書神学舎本科) [4名]		
浅野 正己	二日市栄光キリスト教会 (日本神の教会連盟)	カルバリー・バプテスト豊田キリスト教会
石井 陵太	鷺沼キリスト福音教会 (日本福音キリスト教会連合)	鷺沼キリスト福音教会
畑田 祐二	羽村 聖書教会 (日本同盟基督教団)	羽村 聖書教会
矢吹 祈	行田カベナント教会 (単 立)	行田カベナント教会

… 新入生のあかし …

主の励ましによって

浅野 正己

私は2000年4月から9年間、伝道師・牧師の奉仕をしてきました。その間、牧会の現場で困難な問題に何度も直面してきました。牧師の働きから身を引くことも考えました。私にはふさわしくない務めではないかとも思いました。しかし主は「強くあれ。雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。」(ヨシュア記1:6)のみことばにより私を励まし、召命の再確認をさせてくださいました。

そして、さらに伝道者の使命を果たす為には、聖書を原語から学び直す必要があることを覚えさせられ、同じ聖書信仰の立場に立つ聖書宣教会へと導かれました。

主が望まれているように聖書を信じ、正しく理解し、主に忠実に従う者となるように整えていただきたい。そのように、ひたすら祈り続けています。

大工から学び舎へ

矢吹 祈

私は牧師家庭に生まれ、比較的順調に信仰を持たせていただきました。そして、つい先日まで6年間、大工として家造りに携わってきました。小学生の時から夢であった大工という仕事は私にとっては天職ではないかと思えるほどやりがいのあるものでした。

しかし、一人前になったときから、私は本当にこのまま自分の好きな仕事を続けていいのだろうかと考えるようになりました。それから約2年間、神様に祈り求め「私も人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、皆の人を喜ばせているのですから。」I コリント 10:33 のみことばが与えられました。その時、私ははっとさせられ、献身の決心へと導かれました。神様が私を導いてくださっているとの確信が与えられました。

大工から学び舎へ、異色な転身だと思いますが、完全に真実な主に信頼し、学びに励みたいと思います。





後列左より、三木、松本、佐野、田村、三輪  
前列左より、横手、岡本

氏 名 奉 仕 先

(聖書神学舎本科卒業) [7名]

岡 本 真 紀	いちのみや	キ リ ス ト 教 会	( 同 盟 福 音 基 督 教 会 )
佐 野 慶	とよた かみ いけ	豊 田 神 池 キ リ ス ト 教 会	( 日 本 同 盟 基 督 教 団 )
田 村 将		中 野 教 会	( 日 本 同 盟 基 督 教 団 )
松 本 民 雄	いずみ	和 泉 聖 書 教 会	( 福 音 交 友 会 )
三 木 新		キ リ ス ト 教 朝 顔 教 会	( 日 本 福 音 キ リ ス ト 教 会 連 合 )
三 輪 従	しもこ とり	下 小 鳥 キ リ ス ト 集 会	( 単 立 )
横 手 有 子		大 磯 キ リ ス ト 教 会	( 日 本 福 音 キ リ ス ト 教 会 連 合 )

●●● 卒業生のあかし ●●●

「卒業のあかし」

岡 本 真 紀

『恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。』(イザヤ 43:1b)

主は、私を創造され、贖い、覚えてくださっている。しかし、私は主のものである自覚を持って、主の証人として歩むには、全くふさわしくない者であることを痛感している。

神が『あなたがたはわたしの証人。わたしは

神だ。わたしは神だ』と何度も迫られる。神が、神の栄光のために、私を創造された。しかし、「私は、あなたに名を呼ばれ、あなたの証人として生かされたいと願いつつも、あなたの前に、どうしようもない罪人です。主よ、お赦してください」としか言えない。

主がこの者を、主に仕えるために、主の教会を愛するために召してくださった。私は、召してくださった方を信頼し続けて行きたい。そうだ。もはや、私が生きているのではない。十字架につけられたイエス様が、私のうちに生きておられるのだ。

## 「聖書宣教会の4年間で教えられたこと」

佐野 慶

1. 「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:6)

私が聖書宣教会に入会した時、聖書宣教会はモリヤ問題で大揺れに揺れていました。その後も他の問題が起きました。しかし、そのような痛みのただ中で主を見上げ、真摯な悔い改めをされていた先生方を思い出します。私は何もわからず傍らで共に祈ることしかできませんでしたが、主が祈りを聞いてくださり、最善をなしてくださったことを共に見させていただきました。

2. 「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら…」(ヨハネ15:7)

学びを通して、また、訓練を通して、繰り返し「みことばにとどまり、みことばに信頼する」ということを教えられてきたように思います。そして、みことばへの信頼が、信仰者の歩みの土台になっていくという確信が与えられました。

## 「卒業のあかし」

松本民雄

外国で救われて現地で献身し、帰国後に伝道師を務めていた私は、使徒18:24~28のみことばに押し出されて聖書宣教会に入りました。このみことばは、伝道者アポロがプリスキラとアクラから教えを受けたことで、より正確に力強く福音を弁証したという箇所です。それでは訓練の結果、私がアポロの様に以前よりも正確に力強く福音を弁証するようになったかといえば、その答えは「Yes」であり「Not yet」です。確かに原語による聖書釈義の方法と福音主義神学の骨子を学び、正確さへの意識は格段に高められました。また、説教理論の学びと演習、教会奉仕を通して、以前よりも雄弁になったかもしれませぬ。しかし、聖書宣教会の先生方のみことばへの真摯な姿勢は、私の「正確さ」や「雄弁」にいつも疑問符を突き付けるものでした。先生方の姿を通して、主がそのしもべにお求めになる基準の高さを知ることができたことは、私の生涯にわたる研鑽の力になると思います。

## 「あわれみの見本」

田村 将

舟喜信先生がよくこのことばを用いておられたという話を、入会してから伺った。確かに自分もあわれみの見本以外ではあり得ない、ということを感じつつも、当初はどこかで「よく出来た見本」であろうとしていたことを思う。

しかし、聖書宣教会での日々を通して、様々な形で自らの真の姿に直面させられ、「見本」ということばなど自分には及びもつかないものであることを思い知らされた。「誇る者は主を誇れ」(Iコリ1:31)とのことばに平伏せざるを得ない。

「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。」(Iテモテ1:15,16)

## 「卒業するとは」

三木 新

「卒業するとは一体どういうことか？」

卒業すると言っても、何も学びの手を休めて、学ぶことを終えることではありません。先輩方から言わせると、これからさらに学び続けるのだと言われるのでしょうか。また、卒業することは、それだけ責任を伴うことでもあります。

4年間の研修を振り返る中で、最も教えられたことは、皆さまにとっては当たり前のことだと思いますが、「みことばの大切さ」でした。「みことばは何と言っているか」そのことを教えていただく毎日でした。このことは、生涯かけて知り続けていくことであり、終わることはありません。私たちの最終目標は「みことばを実行することだ」と思いますが、そのためにはまず「神様が私に何を語っておられるか」みことばを通して、聞き続けなければならない、その意味では学びの業を終えるわけにはいきませぬ。

## 「聖書神学舎での学び」

三輪 従

神学校の4年間で学ぶことは非常に多かった。だが、あえて次のようにも自らに問うてみたい。「神学校でしか学べなかったことは何なのか？」

このように、問うならば、神学校でなくとも、信仰者として地域教会に集い、奉仕する中でも学べる事々が意外と多いことに気づかされる。神学校でしか学べないことは、やはり、原語による、みことばそのものの学びであり、そのスタートラインに立たせられることであると思う。

そして、聖書宣教会にはまさにその学びがあった。主の恵みとあわれみによって委ねられた賜物である。その賜物に伴う大きな責任を果たしていけるように願う。神学校でなくとも地域教会で学べる事々における私の至らなさのゆえに、超教派の諸教会によって立てられている聖書宣教会の教育が責められてしまうことがないように自戒したい。また、聖書宣教会の今後にも期待しつつ、祈り続ける者でありたい。

## 「わたしはあなたを練った」

横手 有子

「見よ。わたしはあなたを練ったが、銀の場合とは違う。わたしは悩みの炉であなたを試みた。わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。」(イザヤ48:10,11)

練られ、そして、悩みの炉で試みられた。それは、主のために、主ご自身が行われたことであった。どこへでも行くことができると思っていたら、足が動かなくなった。なんとかやっっていけるだろうと思っていたら、心が動かなくなった。自分に何の希望も見出せなくなった。しかし、それは主のみこころであった。固い自我、高いプライド、自己中心…罪深い者が練られる必要があった。それは、主がこの者を主の器として用いようとしておられるからであった。この4年間は、主のための4年間だったのだ。しかし、気付かされてもお、頑なに自分がいる。これからも、主は、この者を練り続け、悩みの炉で強固にしてくださいることを期待している。

## 図書館だより

図書館長 津村 俊夫

この度、定年を迎えて教師会議長の責任を終え、4月から教師を続ける傍らパートタイムで図書館のために奉仕することになりました。どうぞよろしく願いいたします。

聖書宣教会の図書館は、50年前に教師の方々からの個人的な蔵書を持ち寄って始められました。そして現在約2万冊の蔵書があります。しかし、新しく受け入れられる多くの本が寄贈書であることは今も変わりません。

図書の年間予算は、神学校運営のバロメーターであると言われます。どれだけの予算を図書のために取れるか、それは神学教育に対する姿勢を示す重要な指標です。今の時代だけでなく、将来の教会のために、どのような情報を準備し提供して行くのかは、100年のスパンで教会の歴史を見ようとする時に大切な視点であると思います。

以前、多くの方々から図書館からの呼びかけに応じて、様々な記念日(結婚、誕生、卒業、退職、召天等)に合わせて、本を寄贈していただきました。そのような本には、寄贈者のお名前と「・・・記念に」という文言を付けたラベルを本に貼らせていただきました。そのような形でこれからもご寄贈いただけるようでしたら、その旨をお知らせください。すでにある蔵書とダブらないためにも、予めご連絡くださいますと感謝です。もし、図書館にお任せいただけるのでしたら、「・・・記念」のためにという図書指定の献金をお送りくださるとこちらで選書させていただきます。後日、どの本を記念寄贈書として受け入れたかをご連絡いたします。このような形で貴重な本が与えられるならば感謝です。

東京都の中心!(地理的)の羽村から、諸教会に適切な情報発信を行なえるように願っています。宣教会全体のための祈りの中に、図書館のための祈りとご支援をお加えくだされば感謝です。

# 拡大教師会からの報告と新講師紹介

鞭木 由行

年に一度、聖書宣教会の教育にたずさわる講師・教師全員が揃って開かれるのが「拡大教師会」です。今年も奥多摩福音の家で3月30日から31日にかけて開かれました。出席されたのは、新旧12名の教師でした。

主な議題は3つでした。最初は2009年度からの新体制についての確認です。会長職を廃し、「理事長と校長」で運営して行くことに関して、ここに至るまでの経過を振り返りました。その後の懇談で、再びこれまでの諸問題をおさらいすることになりました。また2009年度からカリキュラムを変更しましたが、宣教会のあるべきカリキュラムについても時間をかけて議論をしました。

第2の議題は、今後の図書館のあり方でした。津村先生は専任教師としての責任をおりましたが、この4月から再度図書館長に就任しました。聖書宣教会が教育研究機関としての役割を担って行くために、図書館の機能を充実させることは重要で、早速津村先生より図書館構想が発表されました。その後、聖書宣教会がその使命にふさわしい図書館を発展させるための方向性と手段を話し合いました。現在の蔵書は約2万冊ですが、すでに図書館は手狭になっており、拡

張工事が必要です。またパソコンを増設して、ネット上に公開されているデータベースを広く活用して行くことを検討中です。

最後に赤坂先生より神学校における研修生活のあり方について発題があり、その後懇談の時を持ちました。神学校の教育においては、知的な教育と霊的教育のバランスの困難さが課題のひとつであることを確認しました。また人との関わりにおいても、関わりを避けたり、あるいは人と適切な距離感を保てないという問題が指摘されました。また強い権利意識、権威において適切さを欠く態度などが見受けられるなど、今後の課題を確認させられました。

今回の教師会に集われた新任の講師は、次の方々です。今泉キリスト福音教会の岡本昭世師（新約各書、説教演習）、OMF 宣教師で現在北海道聖書学院で教鞭を執っておられる蔡孝全師（宣教学）、湘南ライフタウンキリスト教会の伊藤暢人師（旧約各書）、横浜山手キリスト教会の三浦譲師（新約研究）、北秋津キリスト教会の山村諭師（聖書講座）。岡本先生は新任というわけではありません。重荷を負って再び宣教会に戻って下さいました。続けて教師陣が整えられて行くようにお祈りください。

## 近況と祈りの課題

1. 「新体制」をもって再出発できるところまで、主が聖書宣教会を整えてくださった、と御名をあがめています。奉仕者が各々の分を、主の前に正しく担って行けるようお祈りください。
2. 財務の面でも2008年度決算が守られ、感謝しています。概要は、別紙をご確認ください。そして、この年度も、主が一切の必要を、必要な分だけ備えてくださるようお祈りください。
3. 研修生の学びと訓練が祝されるように。人数減で寮生活や係活動に知恵や調整を要する面もあります。
4. 教職員のうえに主の守りがあるように。新任の講師の奉仕準備が祝されるように。
5. この働きの中から、適切で有用な情報発信をして行けるように。知恵と力が備えられるように。

## 編集後記

困難な課題の多い時代です。主が主の教会を守って

てくださることを感謝し、一層の守りと祝福をお祈り

します。聖書宣教会も、主に信頼し、期待して歩みを進めています。教会との同労の恵みを感謝しつつ。(A)